

余市町長選挙及び余市町議会議員補欠選挙執行について

令和4年9月4日任期満了に伴う余市町長選挙及び余市町議会議員補欠選挙（欠員1名）の選挙期日について、5月9日開催された余市町選挙管理委員会において、次のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

大事な投票、忘れずに！



○告示日 令和4年8月23日（火）

○投票日 令和4年8月28日（日）

余市町長選挙及び余市町議会議員補欠選挙立候補予定者説明会の開催について

余市町長選挙及び余市町議会議員補欠選挙に立候補を予定している方を対象に、下記により説明会を開催いたします。当日は、諸手続きの説明を行うほか、立候補届出に必要な書類等を配付しますので、関係者は必ず出席してください。

○日時 令和4年6月14日（火）午後2時

○場所 余市町役場 3階会議室

○参集範囲 立候補予定者、推薦届出者、代理人

※ 出席者は、1立候補予定者に当たり、2人以内でお願いします。

※ 当日、立候補届出の関係書類を交付しますので、印かんをご持参ください。

※ この説明会は、法令に基づいて開催するものではありません。

問合せ 余市町選挙管理委員会 ☎21-2134

余市の人々。 第12回 【江部拓弥】

戦略推進マネージャーの連載を広報誌で掲載しています！

タイトル「香川」

実は香川さん、和菓子の修行をしたことがない。高校を卒業した後、小樽の洋菓子店で3年、札幌のコンビニで2年ほど働いて、余市へと戻って来た。

「和菓子は父親がつくってますから、見てたら自然とわかるかなと」

香川さんが帰ってからの香川は和菓子と洋菓子の二刀流となった。和と洋の生菓子も揃え、陳列棚にはびっしりと色とりどりの菓子が並んだ。

その頃、店の隣にヤマダイという名のデパートがあった（ヤマダイは余市から発展を遂げて現在のイオン北海道へと繋がっていくんですね）。道路を挟んだ斜め向かいには日本酒蔵もあって、日本清酒余市支店が十一州などの日本酒を造っていた（いま余市に日本酒蔵はなくて跡地は余市町中央公民館になっていますね）。港町の人たちが「町へ行く」って言うのは、香川のある大川町へ遊びに来たものだった。

「あの頃は、この辺りに人が溢れていましたね。おかげさまで、うちもよく売れました。つくればつくただけ売れましたかね」

店は職人も雇って、朝から晩までせっせと菓子づく

りに励んだという。りんごもなかの町の名物として愛され始めるのも、この頃だった。

「私が帰って来てから、りんごもなかのあんこにお酒を使ったりして、洋菓子のテイストを加えたんです」

昔話の途中で、ふと、香川さんが言う。視線は僕が食べ終えたりりんごもなかの包装紙だ。

「お酒を入れたのは、相手がりんごなのでね」

ここで話は終わるのかなと思っていたら、ちょっとの間を置いて、香川さんが口を開く。

「お菓子は変えたくてもなかなか変えられないんです。ずっとその味が好きで食べてる方もいますし。最近は砂糖を減らして、甘味が少ない方が人気のようですが、私は私がおいしいと思うお菓子をつくりたい。ちょっとでも材料の分量が変わると、焼き色も変わるし、湿り具合も違ってきます」

それでも、香川さんはりんごもなかの味を変えたんですね、と訊く。

「そうです。そうです」

返ってきたのは、シンプルな答え。

「その方がおいしいと思ったんでしょうね」（続く）

※「余市の人々。」は、余市町戦略推進マネージャーの江部拓弥（えべたくや）さんが、余市町に関わりのある人物へのインタビューをもとに執筆し、「WEB本の雑誌。」(<https://www.webdoku.jp/column/ebe/>)に掲載されているものを、転載しております。※掲載日 2020.9.30

問合せ 企画政策課 企画グループ ☎21-2117